

## 第14話：「令和最初の運動会」

5月としては、異例の30度まで気温が上がったこの日、春季大運動会が開催されました。今年のスローガンは、「令和も一致団結！横浜家族」です。平成から続く「横浜家族」の絆やつながりを、令和最初の運動会でさらに深めていこうという意味が込められています。

子どもたちの演技を見て、気付いたことが3つあります。



1つ目は、演技を通して、児童同士のつながりを深めていく取組があったことです。1・2年生の表現「ドラえもん～みらいへつたえるもん～」では、2年生が、1年生とペアを組んで、練習の時から踊り方を教えている光景をよく目にしました。本番においても、優しいまなざしで、1年生の踊りを見つめている様子が印象的でした。今後の学校生活でも、1年生と2年生の交流が楽しみです。

2つ目は、横浜の文化と伝統の継承がいろいろな種目で行われていました。1～4年生「よこはまおどり」、5・6年生「曳船」などは、地域の方の生歌に合わせて踊りました。いずれもこの日に至るまでに、地域の方に踊り方の指導していただきました。3・4年生の「はまっこソーラン 令和元年」では、漁協でお借りした大漁旗が、横浜の青い海と晴渡った青い空に翻り、見ているものに元気を与えてくれました。この運動会を通して、改めて、横浜小学校は、地域の方々から多大な支援をいただいていることを感じました。この場を借りしてお礼申し上げます。



3つ目は、新しい時代を予感させるような演技の工夫があったことです。5・6年生の組み体操「絆美 for 横浜家族」では、安全面から、ピラミッドなどの技を「高さ」で見せるのではなく、従来の技を「静止画」で表すという発想に留まらず、連続した動き（アニメーション）によって楽しんでもらおうという意図がありました。具体的には、「扇」が笛に合わせて開閉したり、「ピラミッド」が、意図的に立ち上がったり、崩れたりを繰り返したりしていました。赤い旗の中から突然4人の児童が現れる「人間おこし」は圧巻でした。土台となって重さに耐える子や上に上がってこわさとたたかう子など、役割は様々ですが、仲間を信じて、仲間とともに一つの作品を作り上げようとする気持ちは一つだったように思います。



運動会のために練習してきたことも含めて、運動会当日で終わらせることなく、運動会で学んだことを、今後の学校生活につなげていこうと、どの学校でも指導されていますが、そのためには、練習の開始期から、「異学年の交流」「地域文化や伝統の継承」「仲間での信頼」などのコンセプトをもって児童に指導し、達成感を味わわせることで、挑戦することと創造することの喜びを味わわせることが求められると思いました。

校長 寺岡 成希